

研究・調査報告書

報告書番号	担当
35	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
Influence of different types of alcoholic beverages on self-reported health status. アルコールの種類と健康状態への影響	
執筆者	
Theobald H, Johansson SE, Engfeldt P.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Alcohol Alcohol. 2003 Nov-Dec;38(6):583-8.	
キーワード	
健康状態、ワイン、ビール、蒸留酒	
要 旨	
<p>目的： 本研究の目的はワイン、ビールや蒸留酒の消費と健康状態との関係を調査することである。</p> <p>方法： 1996年から1997年にかけて、スウェーデン国民の中から無作為に抽出された14,950人を対象に調査を行った。自己申告の健康状態やワイン、ビール、蒸留酒の消費について面接方式で調査が行われた。</p> <p>結果： 16歳から84歳までの11,606人についてデータが得られた。このうち、2,569人は健康状態がすぐれないと回答した。ワインを飲んでいる人では、アルコールを飲まない人と比べて、健康状態がすぐれないと回答した人の割合が少なかった。（オッズ比：0.56、95%信頼区間：0.50-0.63） アルコール添加ワイン、ビール、アルコール濃度の高いビールやアルコール濃度の高い飲料の摂取者は非飲酒者と同様の健康状態であった。これらは性、年齢、総アルコール消費量で調整した結果である。BMIや喫煙、教育レベル、身体活動度で調整したところ、結果は不変であった。健康状態がすぐれないこととワイン飲酒の間には、少量から中等量のワイン飲酒者でオッズ比が最も小さくなるという「U字型」の関係が認められた。</p> <p>結論： 以上より、中等量のワイン飲酒は健康状態に良い影響を与えることが明らかとなった。生活習慣に関連した因子が根底にあるのかもしれない。</p>	